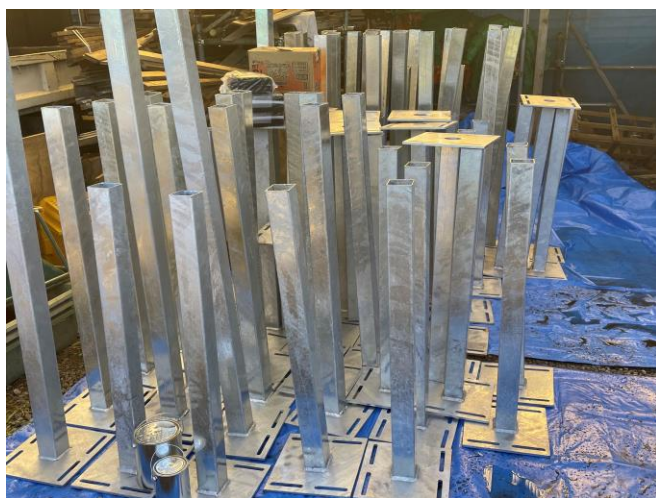


ポリウレアの環境貢献

- ・ポリウレアは殆ど加水分解しないためトップコート無しで耐用年数が長期に渡る。
(紫外線強化剤を使用する事で黄変する弱点を克服)
- ・基本的に工程を減らす事で化石燃料の使用を減らせCO₂の排出は抑えられている。
- ・メッキを施しても錆が出てしまうような過酷な条件下においても、
メッキにかわる重防食の役割を担う。(写真①)
- ・EPSを活用した製品(軽くて強い)を開発し、作業員の負担を軽減する。(写真②③④)



写真①

フロートの対策



発砲フロート 右側は減耗し機能していない

筏上の廃フロート

筏のフロートは摩擦減耗・経時劣化のほか、ネズミなどほ乳類・多足類・貝類・甲殻類により営巢目的で穿孔されやすい。現行は発砲スチロールを耐候性PPカバーで覆ったものを使用しているが摩耗は利用初年より防ぐことができていない。微細に割れた発砲PS屑は回収が極めて困難なため、いかに摩耗させずに退役時にリサイクル可能な状態で回収するかという点より取り組む必要がある。

写真②

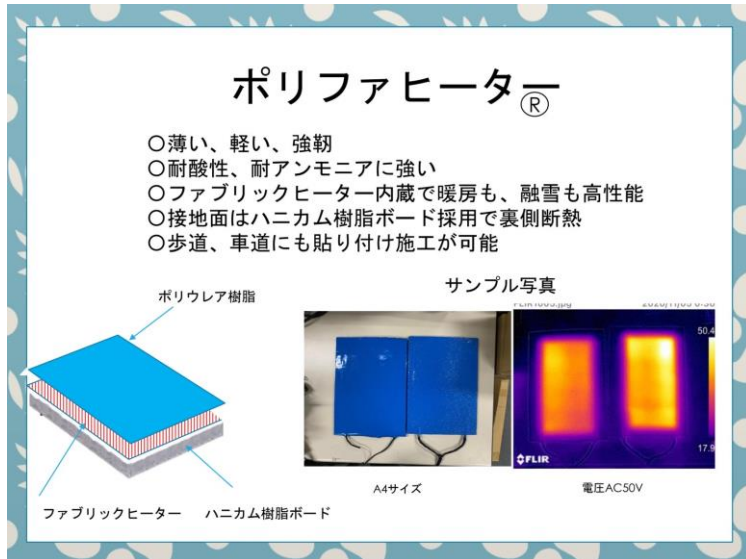


写真③



写真④

- ・ヒーターとポリウレアを組み合わせることで融雪に貢献する。(写真⑤)
- ・炭素繊維との組み合わせで橋脚等の耐震補強。
- ・透明難燃ポリウレアを使用することで構造体（木材、タイル等）に穴を開けることなく、意匠性守りながら耐用年数を長くする。(写真⑥⑦)



写真⑤



写真⑥



写真⑦

- 高速道路の脇の再生プラスチック製品にポリウレアを塗布することにより、強化防護し軽量化に貢献。(ポリウレアの防弾、防爆性能を利用)(写真⑧)
- 防弾防爆性能を利用し時速300Km以上で走行中、雪氷などが当たり、外部に飛び散るのを防ぐ。
- ネティス、NEXCO燃焼試験に合格した事によりトンネルの剥落防止に貢献。(写真⑨⑩)
- トンネルの剥落防止技術を活用し重機が使えない住宅地の擁壁保護。



写真⑧



写真⑨

ニューコートポリウレアライニングシステム 

NETIS 登録番号:KT-190110-A

NETIS登録

国土交通省 新技術システム



「工期短縮」「耐久年数向上」を可能にした超速乾ポリウレア樹脂による吹付け工法

適用箇所 - 公共工事の様々な場所でポリウレアをご使用いただけます -

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>コンクリート工 - その他</p> <p>コンクリート構造物の補修補強工</p> | <p>トンネル工 - その他</p> <p>トンネルの剥落防止工</p> <p>トンネルの補修補強工</p> | <p>道路維持修繕工 - 橋梁補修強工 - 防食対策工</p> <p>橋梁の剥落防止工</p> <p>橋梁の補修補強工</p> | <p>上下水道工 - その他</p> <p>上下水道管渠の補修補強工</p> <p>マンホール内の異食防止対策工</p> |
|---|--|---|--|

写真⑩